

くりっく株365のリスク

「くりっく株365」(取引所株価指数証拠金取引)には、主に以下のリスクが存在します。投資を行う際にはこれらのリスク及び「くりっく株365」取扱会社より交付される契約締結前交付書面等の書面の内容を十分理解した上で、ご自身の判断でお取引を行うようにしてください。なお、以下に掲げるリスクは、「くりっく株365」での取引に生じる全てのリスクを示すものではありません。

価格変動リスク

対象指標である株価指数の価格、金または原油に係る上場投資信託(以下「ETF」)の価格の変動により損失が生じることがあります。さらに、取引金額がその取引について顧客が預託すべき証拠金の額に比して大きい場合、相場の状況によっては差し入れた証拠金以上の損失が発生する可能性があります。また、「くりっく株365」の価格は現物の株価指数やETFの価格そのものではないため、需給関係、相場の状況等によっては乖離が拡大し、その結果、現物の株価指数やETFの価格から想定していた価格で取引ができないなどの不利益を被る可能性があります。

為替リスク

海外株価指数証拠金取引については、投資家は為替リスクを負担しませんが、マーケットメイカーが、自己の負担する為替リスクを勘案して買呼び値及び売呼び値を提示するため、為替相場の状況によってはスプレッドが拡大し、想定していた価格で取引ができないなどの不利益を被る可能性があります。

予想配当に関するリスク

配当相当額は、指数構成銘柄の権利付最終日における予想配当に基づき、その後の株価指数の値に与える理論上の影響値として、東京金融取引所(以下「TFX」)が算出するものです。したがって、「くりっく株365」に係る配当相当額は、実績配当に基づき算出される配当相当額や指数構成銘柄の現物株についての予想配当及び実績配当とは異なります。

金利変動リスク

金利相当額の計算には円や外貨の金利が適用されることから、当該金利水準が変動すること等により、保有する建玉の金利相当額の受取額が減少、又は支払額が増加する可能性があります。

流動性リスク

「くりっく株365」では、マーケットメイカーが買呼び値及び売呼び値を提示し、それに対して投資家がヒットして取引が成立する方式を取っています。その為、状況(天変地異、戦争、政変、各国の法制や金融政策・規制の変更、株価指数の構成銘柄を上場する各取引所の制度変更、当該指数を原資産とする先物取引に係る取引制限、各国の商品市場等に係る政策・規制の変更、ETFを上場する各取引所の制度変更・取引制限、ETFに関連する商品先物取引に係る取引制限、情報配信の遅延・停止、相場の激変等)によって、マーケットメイカーによる買呼び値及び売呼び値の安定的、連続的な提示が不可能又は困難となることがあり、その結果、想定する価格で取引ができない等、投資家にとって不測の損失が生じる可能性があります。なお、平常時においても流動性の低い株価指数やETFの取引を行う際には、希望する価格での取引ができない等の不利益を被る可能性があります。

信用リスク

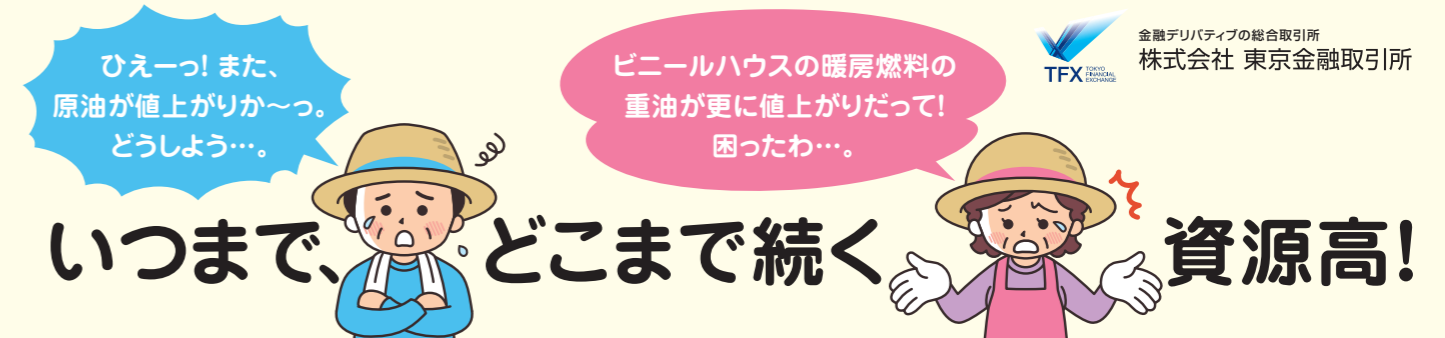
「くりっく株365」においては、投資家の取引を受託する「くりっく株365」取扱会社に対しTFXが取引の相手方となる「清算制度」を導入しており、投資家の証拠金は、全額TFXが分別管理しているため、原則として全て保全されます。しかし、「くりっく株365」取扱会社の信用状況の変化等により支払いが滞ったり、取扱会社が破綻した場合には、返還手続きが完了するまでの間に時間がかかったり、その他不測の損失を被る可能性があります。

システム障害リスク

TFX及び「くりっく株365」取扱会社のシステム、または投資家、取扱会社、TFXの間を結ぶ通信回線等に障害が発生した場合等には、相場情報等の配信、注文発注・執行等が遅延したり、不可能になることがあり、その結果、不測の損失を被る可能性があります。

税制・法律等の変更リスク

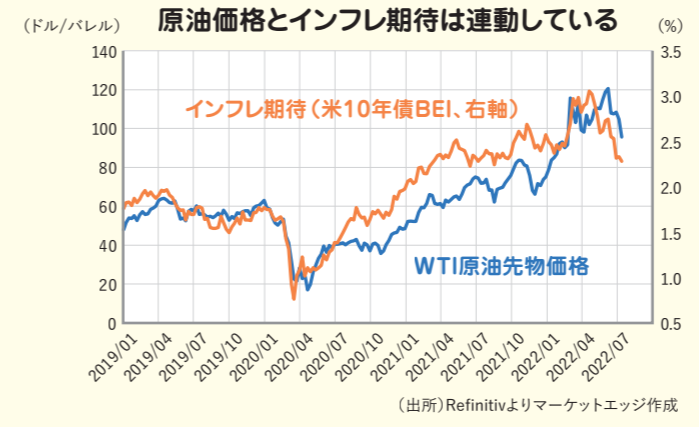
税制・法律またはその解釈等が将来変更され、実質的に不利益な影響を受ける可能性があります。



いつまで、どこまで続く 資源高!

「原材料価格の高騰でお困りの経営者様 / 原油や金のコストの増加を抑えることができる方法があります。」

原油ETF・金ETF証拠金取引の活用のご案内



インフレ環境は今後も続き易い

モノやサービスの価格全体の値段が継続的に上がっていくことを「インフレ(インフレーションの略)」と言いますが、インフレ環境に対して特に影響が大きいのが原油価格の動向です。左上の図は米国の予想インフレ率(BEI)と原油価格を比較したものです。物価連動債の利回りなどから算出する予想インフレ率(BEI)はパンデミック前の1.7%水準に対して、2022年のウクライナ危機後は一時3%に迫る水準で推移しています。これは原油価格の動向とほぼ連動しています。原油や金などコモディティ価格の上昇はインフレを意識させ易く、また逆にインフレ環境ではコモディティ価格は上昇し易い傾向にあります。原油価格が2008年以来の高値を推移する中、今後も高めのインフレ期待が続くリスクが高い情勢になっています。

インフレに対抗するためには、資産を物価上昇で目減りする現金ではなく、モノで持つことが有効と言われています。モノの代表的なものが金などの貴金属、原油などのエネルギー、農産物等の総称であるコモディティ(商品)ですが、それらに投資することをコモディティ投資と言います。このコモディティ投資の一つに、東京金融取引所(TFX)で取引できる「くりっく株365」の「原油ETF証拠金取引」と「金ETF証拠金取引」があり、低コ



1976年千葉県生まれ。筑波大学卒。商品先物取引会社の営業本部を経て、NY事務所にてコモディティ・金融市場の分析を学ぶ。帰国後は調査部門責任者を経て、2016年にマーケットエッジ株式会社代表取締役に就任。商品アナリスト。

ストかつ少額から取引が可能であり、インフレのリスクヘッジに活用できます。

資産防衛ソリューションとしての「原油ETF証拠金取引」と「金ETF証拠金取引」

インフレ懸念が続く中、「資産運用ツール」と同時に、個人投資家や中小企業の「資産防衛ソリューション」として、「くりっく株365」の「原油ETF証拠金取引」と「金ETF証拠金取引」の注目度が高まっています。インフレ環境においては、「原油ETF証拠金取引」や「金ETF証拠金取引」で買いポジション(=原油・金価格の上昇局面で利益)を持つことで、インフレによる現金の価値の目減り、モノやサービス価格高騰のショックから、家計や企業に対して生じるリスクをヘッジすることが可能になります。デフレ環境においては、逆に売りポジションを持つことも可能です。「くりっく株365」を取り扱う証券会社等で口座を開設するだけで、パソコンやスマートフォンでいつでも「原油ETF証拠金取引」や「金ETF証拠金取引」を使った「資産防衛ソリューション」としての取引ができます。インフレ環境における資産防衛やリスクヘッジのツールとして、活用を検討してみても良いかもしれません。 【以上、小菅氏】

原油価格が歴史的に上昇する中、製造コストの押し上げに困っている中小企業の経営者様もいらっしゃると思います。そこで、事業コスト増加に対するヘッジ(損失回避)手段の一つとして、東京金融取引所に上場している **くりっく株365** を用いた取引の活用例をご紹介します。

くりっく株365 には、**原油ETF・金ETF**を原資産とする商品があり、これらの価格は、商品相場と、原則、連動します。

原油価格の上昇が今後も続くとお考えの中小企業においては、こうした環境での活用例として、**「原油ETFリセット付証拠金取引」(以下「原油ETF証拠金取引」)**を買っておいて(買建て)、予想通り相場が上昇したところで**「原油ETF証拠金取引」**を売って値上がり益を得ることで、原油購入の上昇コストを減殺する活用方法がございます。

原油ETF証拠金取引の活用例

- ✓ A社(=中小企業)は1月に20バレル(3,180ℓ)の原油を購入したが、6月にも購入を予定している。
- ✓ A社社長は、原油相場の上昇が今後も続くと考え、ヘッジのため、**くりっく株365**の「原油ETF証拠金取引」の利用を決めた。



A社の取引内容(為替レートは125円/ドル不変と仮定)(注1)

取引日	原油	くりっく株365 原油ETF証拠金取引
2022年1月7日	① 79ドル/バレルで20バレル購入 125円 × 79ドル/バレル × 20バレル =197,500円の支払	② ①と同時に1,872円で1枚(100口)買い [1,872円 × 1枚(100口) = 187,200円] 購入時に約定代金(元本)の支払いなし(注2)
5ヶ月後、予想通り原油価格が上昇し、「原油ETF証拠金取引」の価格も上昇した。		
2022年6月7日	③ 119ドル/バレルで20バレル購入 125円 × 119ドル/バレル × 20バレル =297,500円の支払	④ ③と同時に3,450円で1枚(100口)売り(決済) [3,450円 × 1枚(100口) = 345,000円] 決済時に購入価格との差額が損益になる

原油高から、6月は1月よりも100,000円多く支払う必要がある

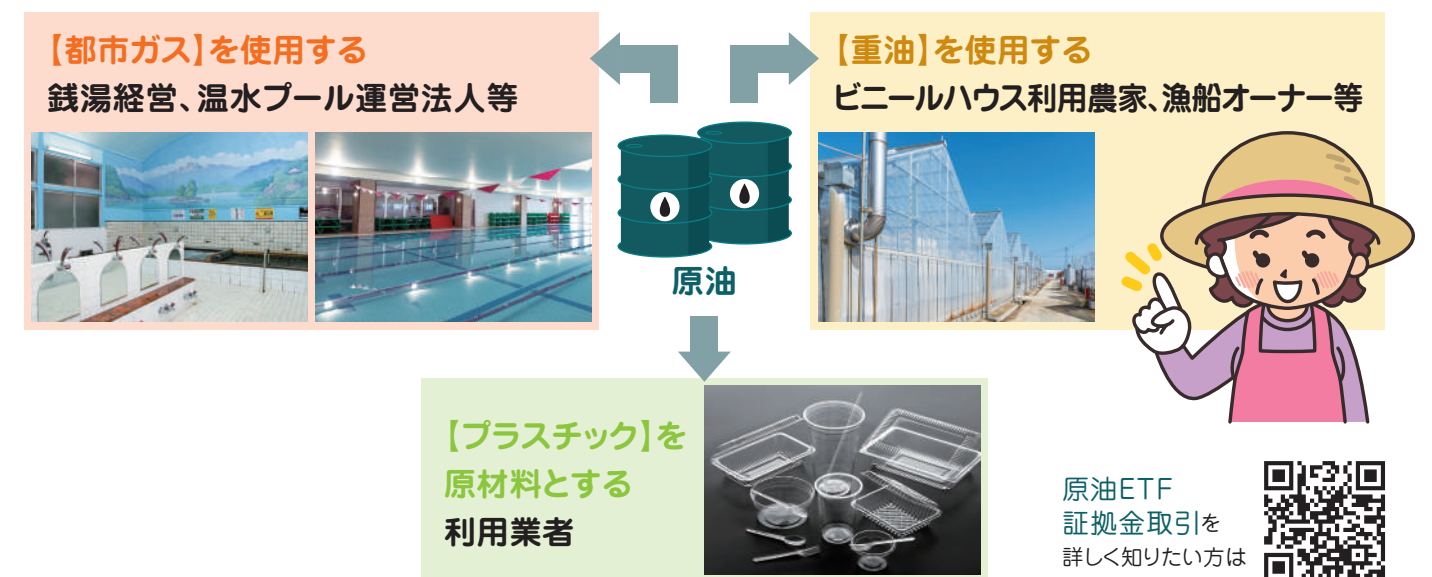
345,000円 - 187,200円 = 157,800円
差額157,800円の売却益(注3)を得た

①に比べ③の取引に伴う原油購入コスト増を、②④の取引による売却益によって減殺することができました。

取引概要	原油ETF証拠金取引	(その他商品の証拠金取引) 金ETF証拠金取引
取引の対象となる原資産	WTI原油価格連動型上場投信(ETF)	SPDR®ゴールド・シェア(ETF)
取引単位(1枚)	「ETFの価格」× 100円	「ETFの価格」× 100円
1枚あたりの取引金額(※)	2,959円 × 100円 = 295,900円	22,036円 × 100円 = 2,203,600円
証拠金基準額(※)	19,960円	52,750円

※2022年7月6日時点のデータを元に算出

原油に価格が連動して動く原材料や商品を取扱う事業者様にも、**くりっく株365**「原油ETF証拠金取引」をご活用いただけます。



くりっく株365の取引は、PC・スマホでも簡単にできます!!

① お取扱いの証券会社等に口座を開設。

② 必要な証拠金を入金。➡取引開始!!

取引の流れ

中小企業会社様 → くりっく株365 取扱会社 → 東京金融取引所

注文

● ほぼ24時間いつでも取引できる!

● 詳細は **くりっく株365** 取扱会社にお尋ねください。

- (注1) 利用例の価格には、過去のWTI原油・「くりっく株365」の市場価格を用いています。実際の取引には、別途、取引手数料と、買いの取引の場合、保有期間に応じた金利相当額の支払いが発生します。
- (注2) 「くりっく株365」のお取引には、必要証拠金額以上の証拠金を預託する必要があります。また、同取引の決済または年1回のリセットまでの間に、「くりっく株365」市場の相場の変動等によっては、証拠金に不足が生じたり、取扱会社が定めるロスカットルールに抵触して強制的に決済され、損失を被るおそれがあります。裏面のリスクに関する記載も十分ご確認ください。
- (注3) 予想に反して、原油価格が下落した場合は、原油(現物)の購入価格が安くなる一方で、原油ETF証拠金取引による損失が発生します。ヘッジとして、「くりっく株365」市場で現物と反対のポジションを持つことで、将来の現物価格の変動を減殺する効果があります。